

## 渡○篤○の医局探訪 血液内科学講座

・あーどーもー。よろしくおねがいします。

—よろしくをお願いします。

・じゃあ、まずは、どんな科か一言でお願いします。

—診療においては、白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫などに対する抗癌剤治療や移植治療の他、再生不良性貧血や骨髄異形性症候群、出血や血栓症（凝固異常症）などの治療も行っております。また、発作性夜間血色素尿症 (PNH) の診療や研究においては全国でも中心的な役割を果たしてきました。さらに、県内の HIV 感染症の診療も当科が行っております。

・早速、医局の方からおじゃましようと思います。あ・・・えっ！外観からは想像できないですね。ちょっとびっくりしたなー。

—はい。医局スペースは各スタッフに十分なスペースが確保された机の配置となっています。

医師のほか、実験の専任スタッフを始め、医局業務・教育・実験・臨床研究それぞれの専門秘書が協力して業務を行っております。

・あれっ、この扉は・・・隣に実験室が続いているのですね。これは素晴らしいですね。

いやー、便利でしょう！ここでは、どのような研究をされているのですか？

—池添教授を中心とした移植治療後の大きな合併症の主たる原因となる血管内皮障害の新規治療薬の開発や急性白血新規治療標的分子の探索、大河原准教授を中心とした多発性骨髄腫や移植後 GVHD 及び TMA の病態解明を始め、みんなが協力して、様々な研究に取り組んでおります。

・まさに皆さんの希望と熱意が感じられる実験室！素晴らしい空間ですね！

・こちらでは、素敵な方が、何やらパソコンに入力されているようですね。

こんにちは。今、何を入力なさっていたのですか？

—治験申請関連の業務を行っております。

・・・治験・・・ですか？

—はい。血液疾患の治療は目覚ましい進歩を遂げている領域です。当科では、その発展を牽引すると同時に、患者様に、最高・最新の治療を受けていただける様、非常に多くの治験に参加しております。例えば、最近では、新規白血病治療薬や半合致移植などで、従来の治療では良くなならない患者様を数多く完全寛解に導いております。

・これは・・・同門会誌ですか？ 如山会誌 第50巻！ 伝統のある講座みたいですねえ。

—旧第一内科時代より血液疾患の診療・研究に当たっておりましたが、循環器・血液内科学講座を経て、2016年からは、主任教授に池添隆之教授をお迎えして、血液内科学講座として新たなスタートを切っております。

・実は、今回は、別棟にある病棟の方も、特別に見せていただけることになっています。

うわー・・・非常に明るくて開放感のある病棟ですね。

—はい。2016年12月より、新築された、みらい棟4階西に移動しております。病棟の特徴としてはどの病室でも窓を大きく採っております。個室も多く、開放感のある環境で落ち着いて治療を受けられます。また、造血幹細胞移植治療を行うための無菌室もクリーンエリア内のレベル100が3床、レベル1000の個室が5床、レベル10000が8床と充実しております。移転後、この環境をフルに活かして、造血幹細胞移植治療を多く行えるようになり、従来の移植治療が難しい患者さんに対する半合致移植治療も増えております。

・今回は血液内科様にお邪魔させていただきましたが・・・

いやー正直びっくりしました。実際に訪問させていただいて、とてつもない熱意とパワーが感じられました。

・最後に血液内科さんで、なにかアピールされる点があれば、一言お願い致します。

—血液内科領域は特にこの10年で、抗がん剤の開発や移植技術の進歩が著しく、劇的に治療成績が改善し、やりがいを感じられる領域です。一方で、非常に強力な治療を行うため、患者さんの全身状態管理や感染症治療が非常に重要であるため、抗癌剤治療や感染症に興味のある方や generalist を目指す方、には、ぜひ、研修していただきたいと思います。お気軽に、医局を覗きにきて下さい。

・まさに、「一見の価値あり！」です。みなさんも、一度、いかがですか？

今日はどうもありがとうございました。

—ありがとうございました。

文責 医局長 木村哲